

小学1・2年生向け

ベンソン先生にあたしはきつと★はもらえない

ジェニファー・K・マン作 青山南訳

ベンソン先生は、よく手を挙げてちゃんと答えたり、片付けが上手な子の名前を、黒板に書いて★のマークを付けてくれます。★が欲しいローズは、算数の授業で手を挙げますが計算がうまくできず、朗読の授業ではもっと大きな声で読むように言われてしまい★がもらえません。その上、授業に来てくれた画家のサリバン先生のところへミルクとクッキーを運ぼうとして、ベンソン先生の机の上でひっくり返してしまいます。もう絶対に★はもらえないと落ち込むローズでしたが、次の日には、苦手な片付けに一生懸命チャレンジします。ローズは★がもらえるでしょうか。



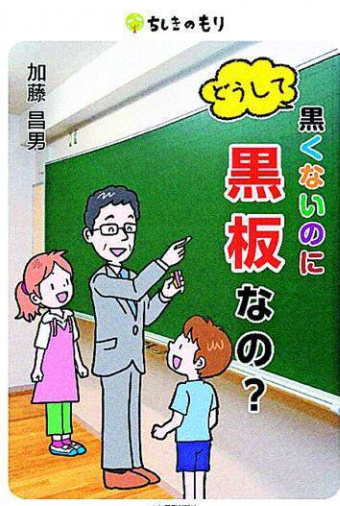
(光村教育図書 1540円)

小学3・4年生向け

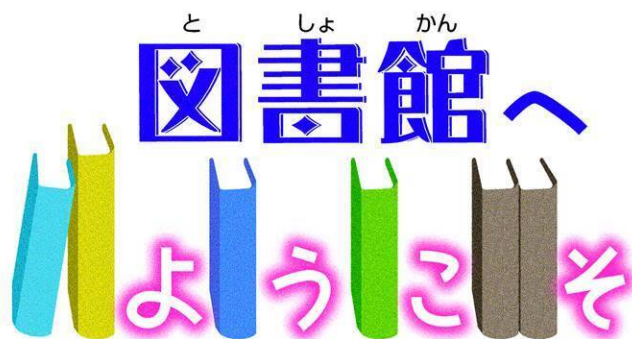
どうして黒くないのに黒板なの？

加藤昌男著

黒板は書いたり消したりできる便利な板で、いまから150年ほど前にアメリカから日本に伝わり、学校で使われ始めました。みなさんの教室にある黒板には緑色が多く使われていますが、なぜ黒くないのに黒板というのでしょうか。理由は、日本に伝わる前のアメリカで、石盤という石の板から作られ、色は黒で「ブラックボード（黒い板）」と呼ばれていたためです。石盤が手に入りにくかった日本では、杉の板が使われ、その後スチール板に変わりました。また、黒板の色は文字が見えやすく、目が見えないといった理由でも決められているそうです。毎日の授業で使われる黒板について、詳しく知ることのできる一冊です。



(少年写真新聞社 1760円)



「黒板」が登場する絵本、物語

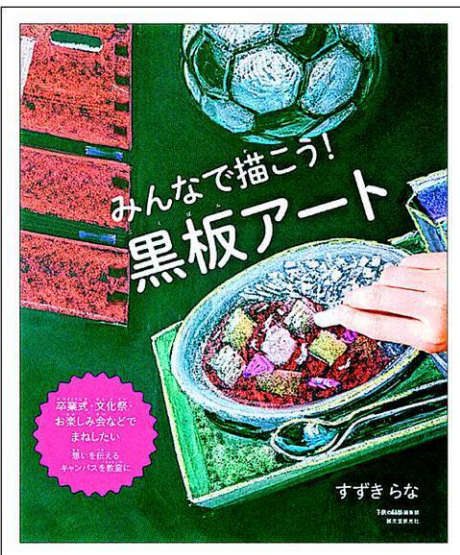
みなさんの学校の教室には黒板がありますか？ 5月9日は、「五九ばん」の語呂合わせから「黒板の日」。今回は、黒板を使うシーンがある絵本や物語、黒板の名前の由来がわかる本や黒板アートの本を紹介합니다。(山梨県立図書館 佐久間絵梨) 毎月第2週に掲載します

小学5・6年生向け

みんなで描こう！黒板アート

すずきらな著 子供の科学編集部編

みなさんは黒板アートを知っていますか？ 黒板アートとは、チョークの使い方を工夫して、チョークの色を重ねたり消したりする手法で、黒板に文字やイラストなどを描く作品のことです。この本では、初級編として一つのモチーフを大きく描く方法、中級編では、りんごなど身近なものを描く方法、上級編では、黒板全面を使って大きな絵を描く方法と段階を追って紹介しています。また、ランドセルやなわとび、給食のカレーライスなどの描き方も、写真とともに多数掲載されています。卒業式などさまざまな学校の行事にあわせて、クラスのみんなと一緒にチャレンジしてみませんか。



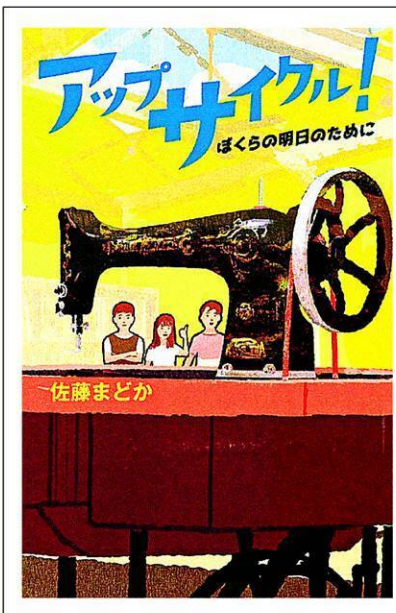
(誠文堂新光社 3080円)

中学生向け

アップサイクル！ ぼくらの明日のために

佐藤まどか作 木内達朗装画・挿絵

夏休み、社会科のグループ研究に取り組むことになった中学2年生の丈、紫月、王ちゃんの3人は、紫月の姉の茜が研究で使っているスタジオの一角を借りて活動をはじめます。「アップサイクル」を研究のテーマに決め、手始めに、スタジオで不要になって放置された黒板とミシン台を組み合わせずてきなテーブルを作ります。アップサイクルとは、捨てられるはずの物に新たな価値を与え、より良いものに再生することです。研究を工作だけで終わらせたくない3人は、インターネット上で不要品のやりとりを通して地域の人々をつなげるサイト「アップサイクル・コネクション」を立ち上げ、起業することを目指すのですが…。



(ポプラ社 1760円)